

平成 30 年 3 月 22 日

各 位

会 社 名 株式会社免疫生物研究所
(コード番号：4570)
本店所在地 群馬県藤岡市中字東田 1091 番地 1
代 表 者 代表取締役社長 清 藤 勉
問 合 せ 先 取締役事業統括推進本部長 中 川 正 人
電 話 番 号 0274-22-2889 (代表)
U R L <http://www.ibl-japan.co.jp>

多能性幹細胞マーカー SSEA-3に対する新規抗体
Anti-SSEA-3 (15B11) Mouse IgG MoAb
の製品販売開始のお知らせ

当社は、平成30年2月20日付でお知らせいたしましたように株式会社生命科学インスティテュート（以下「LSII」という。）と共同で、Muse細胞の分離・精製等に関わる研究を続けてまいりました。

その成果として、Muse細胞のマーカーの1つとして用いられております、SSEA-3(Stage Specific Embryonic Antigen-3)に対する特異的なIgGクラスの新規モノクローナル抗体を世界で初めて作製することに成功いたしました。この度、その成果を平成30年3月21日から開催の再生医療学会で共同発表を行い、3月22日より研究用試薬として全世界に向けて、一般販売を開始いたします。

共同発表においては、①SSEA-3 標品を抗原として用いた IgG クラスの特異的クローンの取得、②得られた抗体のマウス 8 細胞期胚に対する染色性の検証、③間葉系幹細胞のうち抗体に結合する細胞を FACS で単離し、多能性を検証した結果、等について報告しました。

その結果、新規抗体は SSEA-3 に対して特異的であり、単離した SSEA-3 陽性細胞は、多能性遺伝子を発現し、培養した後、自発的に三胚葉に分化することが証明されました。[\(http://www2.convention.co.jp/17jsrm/appli/\)](http://www2.convention.co.jp/17jsrm/appli/)

既存の抗体に比べて、IgGクラスの特異モノクローナル抗体ということから、安定的にご使用いただくことが可能になると考えております。

また、3月23日から台湾で開催のPPSSC (Pan Pacific Symposium on STEM CELLS & CANCER RESEARCH) においても、共同発表を行います。

【ご参考】

Muse細胞 (Multilineage-differentiating stress-enduring cells) は、間葉系組織に存在する多能性幹細胞で、外胚葉 (神経、皮膚など) ・中胚葉 (筋、骨、軟骨など) ・内胚葉 (肝臓、膵臓など) の三胚葉すべてに分化する能力を兼ね備えております。Muse細胞は、損傷部位に集積・生着し、組織特異的な細胞に分化することで、損傷を受けた組織の構造や機能を修復することが論文報告されており、Muse細胞を主成分とする再生医療製品は、安全で治療効果の高い医療の実現に寄与するものと期待されております。

以上